大仙市立西仙北中学校

羽ばたこう　立志の丘から

学校通信

平成２７年１１月１７日
No.３１

2年　渡部さん　堀江君　短歌大会入選！

この度、石川翁顕彰短歌大会実行委員会主催による「石川翁顕彰短歌大会」において、本校２年生の渡部由美さんと堀江駿太君が入選しました。

この短歌大会は、本校学区である九升田地区にゆかりのある石川理紀之助翁を顕彰する大会です。

渡部さんは優秀賞、堀江君は入選を果たし、11月７日、潟上市昭和公民館ホールで表彰式が行われました。

渡部さんの作品「教室の窓から見える青空に
とんぼが伝える秋のおとずれ」
堀江君の作品　「林檎の木雪の重さに負けないで
春きたれば花咲き誇る」

「秋田県農業の神様といわれる石川理紀之助翁は、明治時代の農村指導者で、生涯を貧農救済に捧げ、『老農』あるいは『農聖』と敬称され、『寝ていて人を起こすことなかれ』の言葉を残したことでも知られています。

『老農』とは、在来の農法を研究し、これに自らの体験を加えて高い農業技術を身につけた農業熱心家の人のことを言います。その頃、秋田県内の各地には、こうした老農層が成長し、秋田県農業を支える大きな原動力となっていました。理紀之助翁は、その老農の代表的な人物です。現在の「種苗交換会」を始めた人としても知られています。

理紀之助翁は農業の発展に尽くしながら、かたわらでは和歌を詠むことを日課とし、『貞直』の歌号をもって各地の歌人と交流を持つ一流の文化人でもありました。」（農林水産省ホームページから抜粋）

理紀之助翁は、本学区の九升田地区にも農業指導に来てくださっております。

吹奏楽部第4回定期演奏会

西仙北中学校吹奏楽部第４回定期演奏会が、８日、西仙北中央公民館で開催され、生徒、保護者をはじめ、２００名を超える多くの市民の皆様にお出でいただき行われました。

昨年度まで本校にお勤めの教職員の方々も多数お出でくださり、中にはわざわざ十和田から駆けつけてくれた方もおりました。

第１部クラシックとオリジナルでは、バレエ音楽「青銅の騎士」や「ラピュタ～キャッスル・イン・ザ・スカイ」などが、第２部アンサンブルでは、フルートとオーボエの三重奏やクラリネット五重奏、サックス四重奏、金管五重奏、ホルン三重奏、ユーフォ＆テューバ四重奏、打楽器五重奏

が披露されました。

そして、第３部では、ジャパニーズ・グラフィティーⅧ～ウルトラ大行進～、メモリーズ・オブ・ヘンリー・マンシー、また、ビールのコマーシャルソングを取り上げたお楽しみコーナーもあり、その演出に聴衆の皆さんが大喜びし大喝采を浴びました。

最後の曲を終えると、アンコールの拍手が鳴り止みませんでした。本当にすばらしい演奏会でした。ありがとうございました。

３年生はこの定期演奏会で、部活動に一区切りを付けました。お疲れ様でした。

3年B組　保育園に行く

11月10日には、家庭科の保育実習の体験学習として、３年Ｂ組がみつば保育園を訪問しました。

これは、10月には３年Ａ組が同じ実習を行っておりましたが、今回も、子どもたちが喜ぶ遊びやおも製作について考え、制作しての訪問でした。

講堂では、「ボール当て鬼ごっこ」や「だるまさんが転んだ」で遊び、各保育室では、磁石のつりやぬりえ、剣やマントの製作、折り紙などで、遊びました。

途中ちょっとしたハプニングもありましたが、無事クリア、問題が生じたときの臨機応変の対応も学んだ保育実習でした。

２回にわたり、３年生と遊んでくれたみつば保育園の皆さん、かわいい笑顔と歓声、ありがとうございました。

生徒は、ねらいどおり、幼児とのふれあいを通して、その発達や成長について、理解を深めることができたようです。また、幼児に対する地域や社会の関わりを学び、自分自身の成長や生き方についても考える機会となりました。

ご指導いただいた園長先生をはじめ、みつば保育園の先生方、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

ところで、みつば保育園に行く途中の秋田自動車道西仙北インター付近では、「大仙市柏台太陽光発電所建設工事」が着々と進められておりました。一大メガソーラーの発電所ができつつありました。

（なお、「3年Ａ組保育園に行く」で掲載した秋の深まりの風景は、旧西仙北西中学校の校地でした。）

県統計グラフコンクール表彰式

11月13日に、秋田県庁第二庁舎大会議室を会場に、秋田県統計功労者表彰式が行われました。先に入賞していた本校の生活文化部の３グループも表彰され、生活文化部顧問の髙田先生引率のもと、特選に選ばれた３年髙橋実桜さん、入選した皆さんを代表して３年佐藤汰一君、２年伊藤雪音さんが参加してきました。

夏休み前から、自分たちで決めたテーマに沿って、アンケートを行ったり文献を調べたりしながら、パソコンでグラフ統計の形に仕上げいく活動を行い、その成果が認められた今回の受賞でした。大人の表彰者が多い中で、式に臨んだ３名は、「とても緊張したけれど、忘れられない思い出になった。」と話しておりました。おめでとうございました。なお、本校では、出品した全てのグループも賞をいただいております。おめでとうございます。生活文化部の初年度の活動の礎をつくってくれた３年生の皆さん、お疲れ様でした。１・２年生の皆さんには、さらなる活動の充実を図っていってほしいと思います。

秋田県理科研究発表会

これも生活文化部の話題ですが、10月に第50回大曲仙北児童生徒理科研究発表会が大曲中学校で行われ、本校生活文化部の理科研究班、第１班が最優秀賞に輝き全県大会の出場権を得て、11月15日に秋田大学において、第50回秋田県小・中・高等学校理科研究発表大会で研究の成果を発表しました。

この研究は「過冷却水でできる氷筍の形や高さの条件Ｐａｒｔ３」～大きな氷筍ができる液体の条件を探る～を研究テーマに、３年田村夢貴子さん、石神佑将君、伊藤和稀君、小松悠愛さん、阿部真己君、佐藤拓真君の６名の発表でした。テーマが示すとおり、３年目となる継続研究であり、大きな氷筍をつくるためには、35分間かけてつくった過冷却水（０度Ｃ以下であって凍らない水）400ｍＬが好条件であったと実験結果を述べています。また、研究大会では中学校33グループの発表がありましたが、その中で優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。これで３年生の活動は一区切りとなりました。後輩が研究を引き継いでくれるものと思います。